

「かきのきおやこ」

作者：木谷安憲（きだにあんけん）



長崎県のあるところに甘くて
おいしい実をつける元気な柿
の木がありました。この柿の
木はうれしそうな子供たちを
見ることが何よりの楽しみで
す。

ところが今から 70年
程前の 8月 9日のこ
とです。

ピカッと光ってドカン
と音がしたかと思うと



そこらじゅうが火事になっ
てぼうぼう ぼう
ぼうと燃えているので
す。

柿の木は 恐くて恐くて
何がなんだか分からなく
なりました。

そのうちに火事はおさま
りました。

大きなやけどをした柿の木はも
う実をつけることができなくな
ってしまいました。



何年もたったある時木のお医者さん、じゅもく先生がやってきました（じゅもく先生）「驚きましたよ 柿の木さん。

原子爆弾を受けたのにこんなに元気じゃないですか。あなたは平和のシンボルですよ」

（柿の木）

「とんでもありませんあの戦争のせいでもう実がなくなりました。です平和のシンボルどころかもうすぐ枯れるただの木です」

（じゅもく先生）

「そんなことを言わないでください。私は木のお医者さんです。直るかどうかわからないけど手術してみましよう」



手術には長い時間がかかりました。柿の木が原爆で受けた傷はたいへん深かったからです。じゅもく先生は必死になって手当てをしてやっとのことで終わりました。

(柿の木) 「本当にありがとうございます
います」

じゅもく先生はその言葉の中に「もう二度と私のような木を
つくらないでくださいね」という 祈りのようなものを聞いた気がしました。

そして秋がやってきました。



(じゅもく先生)
「よかった。
(問)

おいしそうな実で
いっぱいですね」

(柿の木) 「ありがとう 先生。
生きていてよかったです」

(じゅもく先生)

「大袈裟ですよ柿の木さん。
そうだ わたしにあなたのこ
どもをつくらせてもらえませ
んか? 長崎じゅうの子どもた
ちにあなたのことを知っても
らいたいんです」

柿の木はにっこりう
なずいて自分の種や
枝を先生にあげまし
た



それから じゅもく先生は柿
の木の子どもたちを大切に
大切に育てました。

(じゅもく先生)

「元気に育て柿の木赤
ちゃん。すくすく すく
すく丈夫に育て」

「元気に育て柿の木
赤ちゃん甘くて お
いしい柿の実つけ
て」

原爆をうけた木の子どもたちが
大きくなる 実をつけるという
ことはこれまでだったら考えら
れないことです。

じゅもく先生は少し大きくなった柿の木赤ちゃ
んを長崎のいろいろな場所に植え始めました。
そして 植えるたびに「命ってすごいなあ」と思
いを巡らせました。



そんなある日じゅもく先生のことを聞いて絵を描いているおにいさんが やってきました。

(おにいさん) 「じゅもく先生。先生はスゴイですよ。僕にも何かやらせて下さい」

(じゅもく先生) 「それは嬉しいですね。でも・・・一体何をやるんですか?」

(おにいさん)

「いいアイデアがあるんです。
柿の木赤ちゃんを植える時にみんなで絵を描いたり歌ったり踊ったりするというのはどうですか?」

(柿の木) 「ああ それは楽しそうですね。でも おにいさん一人ではできないでしょう?」

(おにいさん)

「だいじょうぶです。きっとたくさんの友達が集まってきます」

こうして「柿の木ともだち」と名付けられた仲間達は柿の木赤ちゃんを長崎だけでなく日本全国に届けることにしました。



(おにいさん)

「ここにいるのが柿の木のあかちゃんだよ。植える前に みんなで一緒に柿の木の絵を かいてみようよ」

♪ かいてみよー かいてみよー
ー今の気持ちを かいてみよーか
いてみよー かいてみよー柿の気
持ちを かいてみよー

子どもも大人も柿の木赤
ちゃんのことをよく見ま
した。長崎の柿の木のこ
ともじっと考えました。

(おにいさん)

「みんな心の中でも柿の木赤
ちゃんを育ててみてくださいね」

♪ かいてみよー かいてみよー
ー今の気持ちを かいてみよーか
いてみよー かいてみよー柿の気
持ちを かいてみよー



さあ いよいよ柿の木
赤ちゃんを植える時が
来ました。

子ども達ひとりひとりも
そっと土をかけてあげま
す。

そして柿の木赤ちゃんと
みんなは 10年後の同じ
日 同じ時間にまた ここ
で会う約束をしました。

そのうちにいろいろな国の人達
が柿の木赤ちゃんに会いたがる
ようになりました。



そこで じゅもく先生や
おにいさんは柿の木赤ち
ゃんを世界中の子供達に
届けることにしました。

外国に行っても絵を描いたり
歌ったり 踊ったりします。

どの場所に植えられた柿の木赤
ちゃんも 10年後の同じ日 同
じ時間にみんなで会う約束をし
ました。

1



さて ここ長崎の柿の木のまわり
にはたくさんの「柿の木ともだち」
が集まっています。

(じゅもく先生)

「柿の木さん 柿の木さん。柿
の木さんと柿の木赤ちゃん
のおかげでたくさんの友達がで
きましたよ」

(おにいさん)

「そうですよ。世界中の
子供たちが柿の木赤ちゃ
んと遊んでいるんです
よ」

それから柿の木ともだ
ちは感謝の気持ちを込
めてふわっと

